ソフトインストール・シャットダウン連携操作
簡易マニュアル（360NⅡ／1000NⅡ：USB・RS232C用）

注意

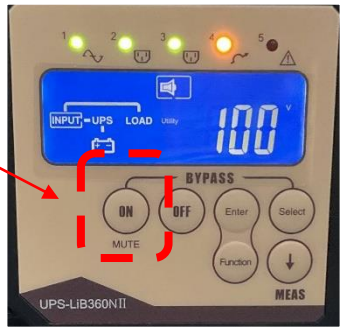
サーバー管理者、社内システム責任者ご承認の上で詳しい方のみ操作してください。
誤った操作をすると、UPSにアクセスできなくなる恐れがあります。本マニュアルにしたがって操作してください。
また、お使いのPC環境によって画像は多少異なる場合がございます。

■1．準備

1．1立上げ準備

本品の入力プラグが商用電源（AC100V）に接続され、UPS起動している事を確認してください。起動していない場合には、UPSのONスイッチを「ピッピッ」とブザーが2回鳴るまで長押しして起動確認をしてください。その後にUSB、またはRS232に接続するPC（Windows版）も起動させてください。

ONスイッチ



UPS起動

※1000NⅡ同様操作。

1．2　USB、またはRS232に接続

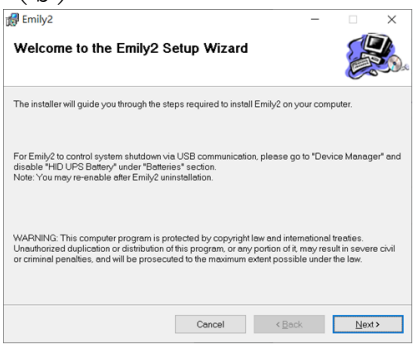
PCとUPSを、ケーブルにてUSBまたはRS232に接続します。

1．3　Emily2のインストール

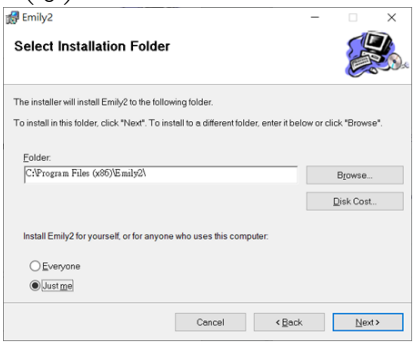
Emily2（Windows版）をURL「https://hakusan-mfg.co.jp/software-download/」からダウンロードしてください。
Emily2のセットアップファイル”Setup.msi”を任意のフォルダに格納した後、格納した”Setup.msi”をダブルクリックしてセットアップを実行します。
（a）をダブルクリック後、（b）の画面が立ち上がり、（b）～（d）は“Next”をクリックし、（e）ではインストールが完了するのをお待ちください。（f）が表示後“Close”をクリックして“Emily2”のインストール完了です。
※（a）→（b）→ …… →（f）の順で進めてください。

（a）

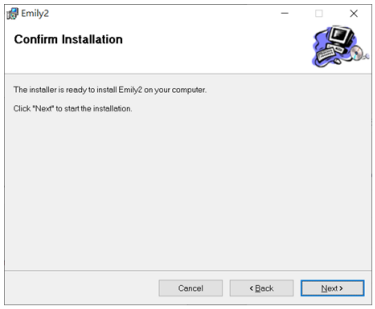
（b）



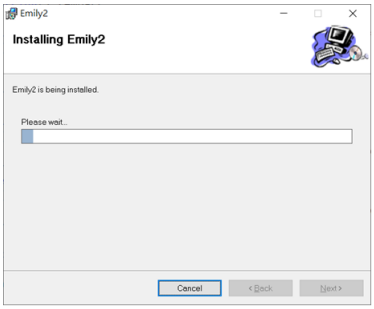
（c）



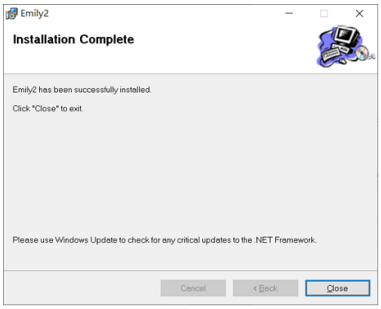
（d）



（e）



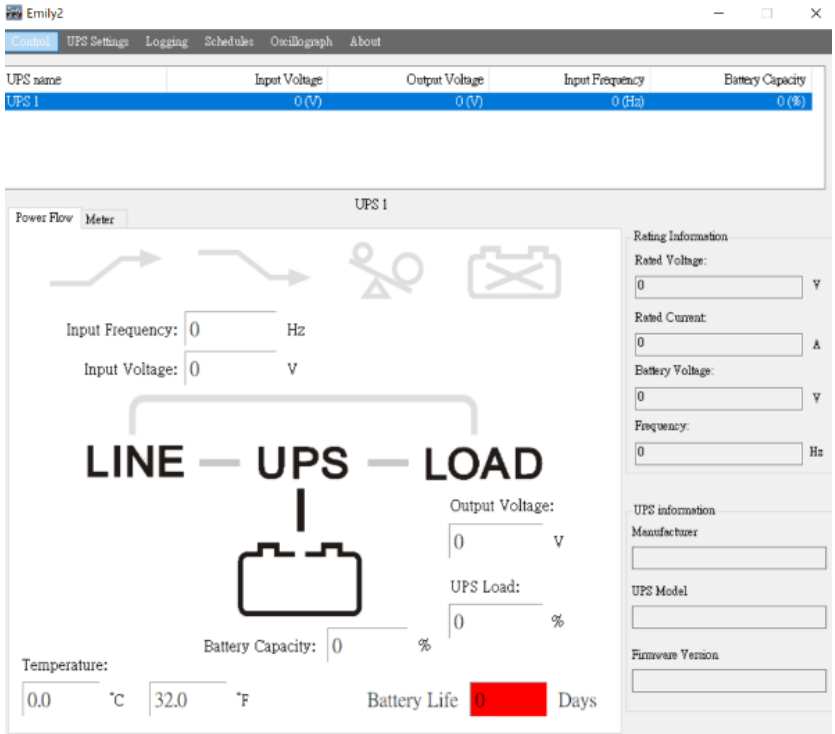
（f）



©Hakusan Inc.

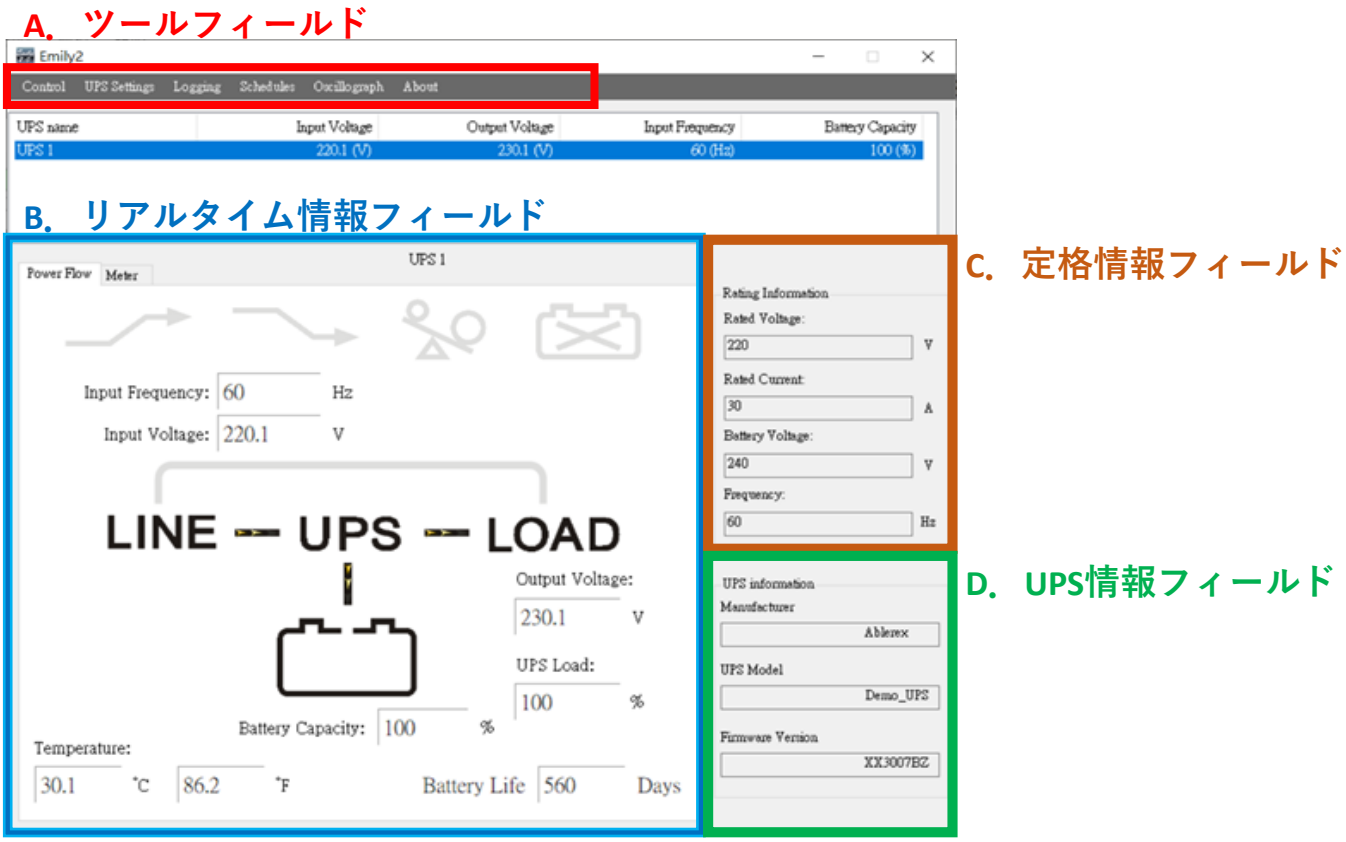
1．4　Emily2の起動

Emily2のアイコンをクリックし、Emily2を立ち上げてください。



1．5　Emily2　画面内容

Emily2の画面構成は以下のとおりです。

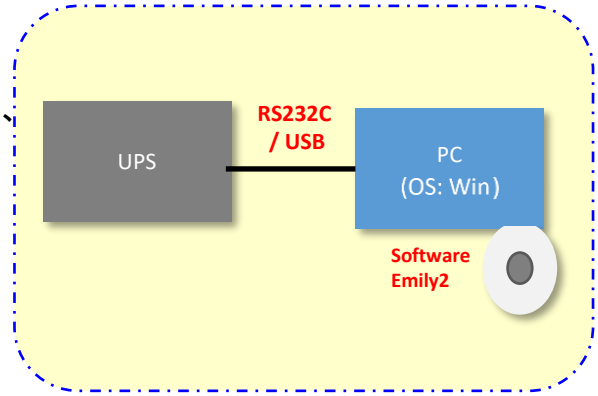


©Hakusan Inc.

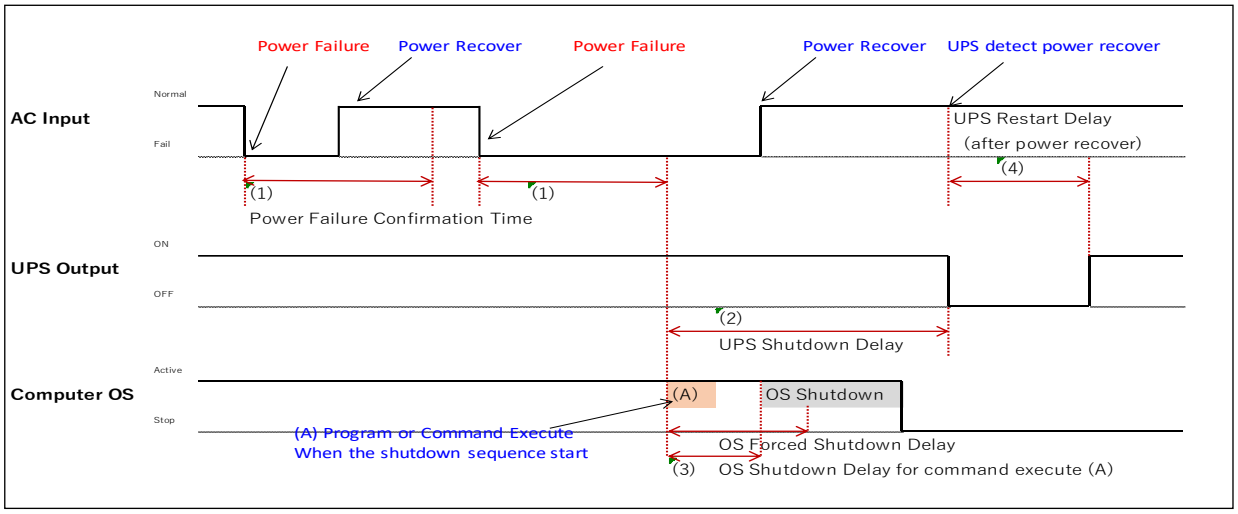
■2. PC(Windows)とのシャットダウン連携設定

シャットダウンソフトウエア:“Emily2(Windows版)”を使用することで、UPSで検出する停電発生などのイベントで、PCのシャットダウン処理を行うことができます。

右のシステム構成において、停電発生時にPCのシャットダウンを行う設定を説明します。



2. 1 停電時のPCシャットダウンタイミング



上のタイミングチャートは停電発生時のシャットダウン動作を表しています。
Emily2で設定できる項目は次のとおりです。チャート内の(1)～(4)、(A)に対応しています。:
(1)停電の確認時間: 任意の時間、停電が継続した場合にPCのシャットダウンを実行するための確認時間です。この時間以内で停電が復旧した場合は、PCのシャットダウンは行われません。

(2)UPS停止遅延時間: (1)停電の確認時間が経過後、UPS出力を停止させるまでの時間です。PCのシャットダウンに必要な時間以上の時間を設定します。<u>設定されない場合には、PCが正常にシャットダウンできない可能性があります。</u>

(A)OSシャットダウン前に、プログラムやスクリプト実行が必要な場合は、プログラム名・スクリプト名を定義します。

(3)OSシャットダウン開始時間: (1)停電の確認時間が経過後、OSシャットダウンを開始するまでの時間を設定します。Emily2は0秒から設定することができます。(1)停電の確認時間が経過後、直ちにシャットダウンを開始する場合は、0秒を設定します。

(4)UPS起動遅延時間: UPSが停止し停電が復旧した場合、UPSが起動を開始するまでの最低時間です。工場設定のためユーザでの変更はできません。(現在は約3秒に設定されています。)

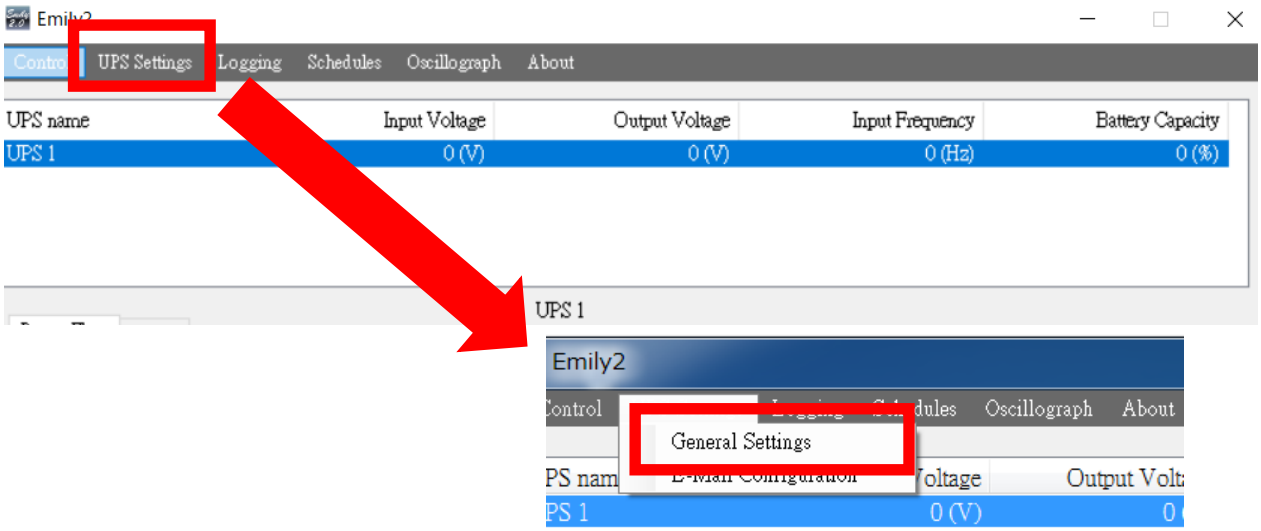
本資料では、一例として以下の時間で設定を行います。

(1)停電の確認時間:	60秒
(2)UPS停止遅延時間:	2分
(A)ユーザスクリプト:	設定しない
(3)OSシャットダウン開始時間:	0秒 (停電確定後、直ちにシャットダウン)

©Hakusan Inc.

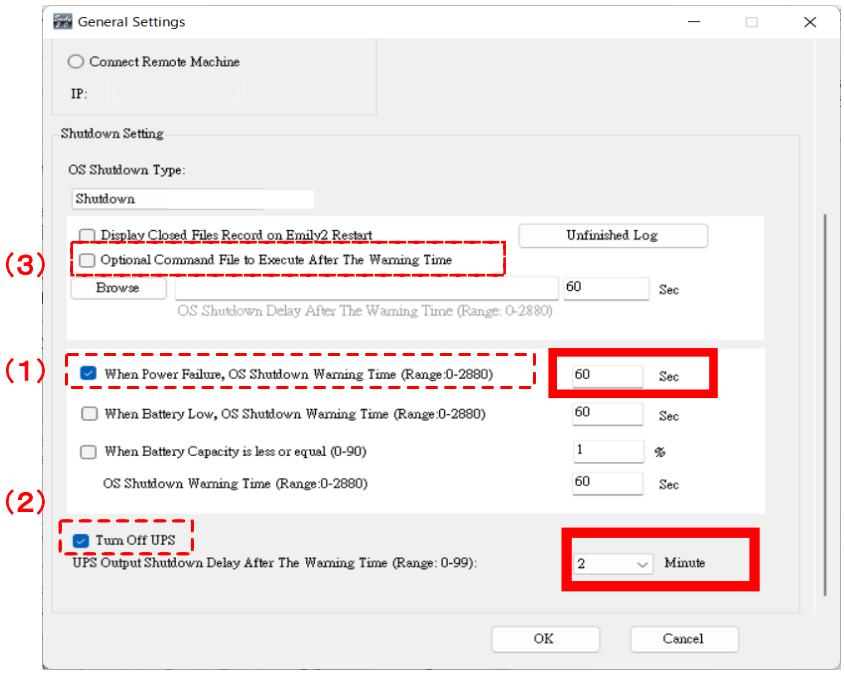
2．2　シャットダウン設定

Emily2のツールフィールドより、“UPS Setting > General Setting” を選択します。



“General Setting”を開いたら、表示を一番下までスクロールしてください。
以下の画面　赤い点線枠の設定が、(1)～(3)に対応しています。

“When Power Failure, OS Shutdown Warning Time”　→ (1)停電時間の確認
“Turn Off UPS”　→ (2)UPS停止遅延時間
“Optional Command File to Execute After The Warning Time” → (3)OSシャットダウン強制開始時間の設定です。



- (1)にチェックを入れ、設定値に「60」と入力してください。
- (2)にチェックを入れ、設定値を「2」に設定してください。
- (3)にはチェックは入れず、入力もしないでください。

※(A)ユーザースクリプト：設定しない

“OK”を選択すると、設定が有効化されます。

■3．停電・PCシャットダウン試験

UPS本体の入力プラグを商用電源から外して、擬似的に停電を発生させます。
停電発生から約60秒（～70秒）でOSのシャットダウンが開始され、
停電発生から約180秒（～190秒）でUPSが停止することを確認してください。
再度UPSの入力プラグを商用電源に接続し復電させると、UPSが自動的に起動し、PCへの給電が再開されます。

©Hakusan Inc.